

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人そくしん そくしん河南（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 28日		～	2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19世帯	(回答者数)	16世帯
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		～	2026年 2月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎週、水曜日に、ホームページ（ https://ds.npo-sokushin.org/ ）で活動報告や研修で行った内容などを配信している。	たくさんの写真を用いたり、読みやすい体裁にすることで、見やすい記事になるように努めている。決まった曜日に更新することで、読者が楽しみにしやすいようにしている。紙の配布物にはブログにアクセスできるQRコードを入れたり、LINE officialのメニューからワンタップでアクセスできるようにプログラムしている。	内容については申し分ないものの、毎回更新したことをお知らせしているわけではないので、更新した際にお知らせすることで、活動内容をより知っていただきやすくなる。
2	家族や地域の方が参加できるようなイベントや、多彩な外出活動、食育などのプログラムを豊富に提供できるように心がけている。	保護者やきょうだい、地域の方にご参加していただきやすいイベントとなるように計画している。外出活動や食育では、子どもたちが参加しやすいメニューや、好評だったものを取り入れている。毎回固定化されないようにも工夫している。	近隣で開かれているイベントに精通し積極的に参加できるよう取り組み始めている。
3	子どもの状況に合わせて支援が行えるよう、頻繁にミーティングを開き、意識の共有や注意する点、特に支援する必要のあることなどについて、積極的に意見を交わしている。	30代から60代のスタッフが在籍しているので、多彩な意見を出すことができている。アイデアが出た際は、最初から否定するのではなく、やってみてからブラッシュアップする、という方針で行っている。	他の店舗の取り組みで良かったことなどを共有し、良い取り組みになるようにしていこうと計画している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別のスペースはあるが数や広さに限りがあるため、落ち着けるスペースが少ない。	構造上、広いワンフロアが面積を占めているため、個別のスペースを作ることができていない。	現在ある個別のスペースを有効活用することや、事務所のスペースを個別のスペースとして用いることなどが検討できるかもしれない。
2	児童クラブや児童館との交流や、地域のほかの子どもと活動する機会がない。	以前はあったが、感染症対策のために取り組めていない。	開かれている児童クラブがあるため、積極的に参加できるように、外出イベントに組み込むことができる。
3	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	義務化されていないため、実施していません。またこの取り組みを行うにはかなりの費用や労力を要するため後回しになっています。	正式な手順は踏めなくても、他のプロフェッショナルな第三者を施設に招いて評価及びアドバイスを受けることができるかもしれない。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		そくしん河南（放課後等デイサービス）		公表日 2026年3月31日				利用児童数 21名（2026年3月1日現在）		回収数 16世帯	
		チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。		16							
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		16							
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		16							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。		15			1	集団行動が苦手、施設内の活動が苦手なようなようです。	新たなスペースを確保しました。落ち着いた過ごせるような環境が実現するよう取り組んでいきます。		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。		16							
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。		15			1	どちらに公表していますか。	ホームページにて公表しております。それに基づいて支援内容を作成しています。		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。		16							
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。		14			2	よくわかりません。	2024年度から新たに始まった取り組みです。今後、さらに支援サービスの質を向上できるように児童発達支援管理責任者が率先して努力しているところです。		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。		16							
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。		16							
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		16							
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。		15	1						
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。		15			1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		13		2	1	研修会があれば参加します。	新年度（令和8年）からペアレント・トレーニングを実施する計画を立てています。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。		16							
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		15			1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		16							
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		16							

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		NPO法人そくしん そくしん河南（放課後等デイサービス）		公表日		2025年 3月 31日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	2	園庭のスペースを広く取り伸び伸びと体を動かせます。	もっと個室スペースを落ち着いた場所にさせる必要がある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11		安全と、きめ細かな療育を行なうため、基準より多い児童2人につき1人の割合で配置しさらに、1人余分に配置しています。	スタッフは十分配置していますが、さらにスタッフ同士の連携をはかりよいチームワークで見守ります。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11		施設内を改装し、狭かったトイレ周りを車椅子での介助ができる広さを確保しています。	外の園庭やフェンスなどさらに活動しやすい場所になることを目指します。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		除菌を頻繁に行い、次亜塩素酸の加温器を導入している。	ほとんどの児童は心地よく感じている様子だが、一部の児童は特性により活動しにくくなっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	6	個別のスペースを利用したい児童が多い。	個別のスペースをさらに増やす予定。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11		毎日ミーティングの時間を長く取り分けることにより療育や業務全体の質の向上を目指しています。	マンネリ化し、その日決めたことを実行できなければ、次回のミーティングも同じことを話し合うことになりがちなので気を付けたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		アンケートを実施し、保護者の意見や要望は都度把握しています。できるところから改善させていますが、全てに取り組むにはさらに時間と努力が必要です。	アンケートに基づき改善させていますが、全てに取り組むにはさらに時間と努力が必要です。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		始めのミーティングと、終了時の振り返りのミーティングで意見を吸い上げ改善に努めている。	業務が忙しく、十分意見を把握できなかったり、改善するに至っていないこともある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	—	—	義務化されていないため実施していません。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		毎月社内研修や、療育の向上のための研修を定期的に受けていただき、資質向上に役立てています。			
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		公開しています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11		個別支援計画をもとに個別の療育内容を考慮し実施しています。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		支援会議や社内研修、日々のミーティングの機会に職員間で情報を共有し、最善のサポートに関して意見を出し合いながら検討しています。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		支援会議や社内研修、日々のミーティングの機会に計画を共有し、その計画を確実に実行できるよう努力しています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1	標準化されたツール（田中ビネーVなど）は用いていませんが、実施された結果をご家族などから共有いただき、その数値を客観的な指標としてアセスメントに組み込んでいます。具体的には、精神年齢（MA）を参考に課題の難易度を調整したり、日々の観察（インフォーマルなアセスメント）と照らし合わせて支援計画を作成しています。	とはいえ標準化までには至っていません。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		児童別のニーズに合わせて、支援内容を設定しています。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		定期的にチームで考慮しています。			